

きそだ 木曾田遺跡 (第 1・2 次)

所在地 鈴鹿市国府町字木曾田 9106 外 43 筆
事業主体 鈴鹿市教育委員会
調査目的 平田野中学校移転改築に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間 第 1 次：平成 24 年 1 月 16 日～平成 24 年 3 月 6 日
第 2 次：平成 24 年 7 月 4 日～平成 24 年 11 月 13 日
調査面積 7,147㎡ (第 1 次：475㎡, 第 2 次：6,672㎡)
調査主体 鈴鹿市 (鈴鹿市考古博物館)
調査担当 吉田 隆史
調査協力 第 1 次：安西工業株式会社
第 2 次：株式会社イビソク



図 1 木曾田遺跡及び関連遺跡等位置図 (任意縮尺)

1 位置と環境

調査地を含む木曾田遺跡は、鈴鹿川中流域の右岸段丘上に位置し、その標高は約 42 m 前後である（図 1）。鈴鹿南西部丘陵裾の北向き緩斜面に立地する。鈴鹿市国府町を中心とする鈴鹿川右岸段丘上は、古くから開かれた地域であると考えられ、人々の生業が脈々と確認されている。

木曾田遺跡は、平田野中学校の移転改築を契機に発見され、2 回に及ぶ試掘調査の結果、溝や柱穴等が検出されている。遺物は土師器及び須恵器、灰釉陶器、瓦等が出土し、古代から中世を中心とする埋蔵文化財包蔵地として推定されている。過去における本調査の事例はなく、今回の調査が初めてのものとなる。

木曾田遺跡の周辺には、南西に近接して天王山西遺跡、西方に三宅神社遺跡、北方に梅田遺跡が所在する。これらの遺跡では、過去に天王山西遺跡で 2 次、三宅神社遺跡で 5 次、梅田遺跡で 1 次にわたる本発掘調査が実施されている。特に三宅神社遺跡では、8 世紀末～12 世紀の掘立柱建物や井戸等が多数検出され、大規模な掘立柱建物や建物が計画的に配置された状況が確認されている。出土遺物には、灰釉陶器及び緑釉陶器、円面硯、転用硯、斎串、横櫛等が並び、官衙的要素が非常に濃密である。天王山西遺跡でも、8・10～12 世紀の成果が挙がり、灰釉陶器及び緑釉陶器、円面硯等が出土している。梅田遺跡においても、8 世紀後半～9 世紀の規格性の高い掘立柱建物が検出され、灰釉陶器や墨書須恵器が出ている。北方に所在する富士遺跡や平野遺跡においても、識字層の存在を想定させる遺物が出土している。近年では、平田遺跡において、幅 9 m の道路遺構が約 130 m にわたって直線的に検出され、その延長は伊勢国分寺跡の所在する国分町と国府町を繋ぐ方向を示すため、非常に興味深い。

以上のように、木曾田遺跡の所在する国府町は、古代における特筆した知見が得られている。なお、鈴鹿川を挟んだ対岸の広瀬町には長者屋敷遺跡が存在し、奈良時代中期の伊勢国府跡として国の史跡に指定されている。伊勢国府跡は 8 世紀中葉に造営されたが、8 世紀末頃には廃絶し、長期間にわたって維持されなかったものと考えられている。国府町は、「国府（こう）」との名が示す通り、何らかの事情で廃絶した国府の有力な移転先として推定されている。国府の中心的施設である政庁が確認されていないため、確証を得るものではないが、過去の調査結果も踏まえると、その可能性は決して少なくない。

2 調査の成果（図 2）

中学校の建物建設に先行して造成工事が行われることから、発掘調査は 2 期に分けて実施した。第 1 次調査は、平成 24 年 1 月 16 日から 3 月 6 日にかけて行った。擁壁施工部分の一部（1～4 区）及びクラブハウス（5 区）を対象とし、475㎡に対して調査している。併せて、第 2 次調査部分に厚く堆積する盛土の除去も行っている。

第 2 次調査は第 1 次調査で確認できなかった部分に対して行った。中学校建設にかかる校舎棟（1 区）及び中水槽（2 区）、屋内運動場棟（3 区）、プール棟の一部（4 区）に調査区を設定し、6,672㎡を調査した。平田野中学校移転改築工事にかかる調査はこれを以って終了し、総調査面積は 7,147㎡に達する。

【木曾田遺跡第 1・2 次調査結果概観】

①奈良～平安時代

木曾田遺跡において、遺跡が形成されるのは古代からである。前代の遺構及び遺物は検出されていない。調査区内を流路 SD2142・SD2194 が縦貫する。流路と接して溝 SD19・SD2018・SD2030 が配される。これらの流路や溝は中世以降まで存在していたものと考えられ、SD2018 の上層からは室町から江戸時代に至る遺物も確認され、長期間にわたって機能していたことが分かる。SD2194 からは、「川」が押印された文字瓦が出土している。流路に挟まれた微高地には 2×4 間の掘立柱建物 SB2037 が造られる。また、SB2037 とは隔絶して井戸 SE2072 が存在する。SE2072 からは黒色土器と共に、原位置を留めないものの、

井戸枠の一部と見られる木材が出土している。

周辺の三宅神社遺跡及び天王山西遺跡等と同様、古代を中心とする成果が大いに期待されたものの、該当時期の遺物は一定量出土しているが、遺構は限定される結果となった。

②鎌倉時代

木曾田遺跡における人々の生業が盛行するのは、鎌倉時代である。流路 SD19・SD2018・SD2142・SD2194 は引き続き南北方向に大規模に走る。掘立柱建物 SB2021・SB2022・SB2206 等が居住域を形成し、その周囲には区画溝が造られる。地下水位が高いためか、SE2003・SE2072・SE2154・SE2158 等の井戸が積極的に掘削される。これらの井戸からは山茶椀及び山皿、土師器鍋等が多数出土した他、木材やモノの種子も出ている。また、青磁や白磁、墨書山茶椀も一定量存在する。SE2154 は SD2142 によって埋没し、強く浸食されている様子が見える。流路を臨む微高地における中世前期の土地の利用状況が窺われる。

近隣の梅田遺跡では、同時期に大規模な掘立柱建物を含む複数の掘立柱建物が建てられ、区画溝によって囲繞される。「上」や「モミジの絵」が描画された墨書山茶椀に加え、青磁四耳壺や白磁等の貿易陶磁器が多く出土しており、在地有力者層の存在が想起される。木曾田遺跡はこれに関連する遺跡であろうか。

3 遺物

コンテナバット (34.5 × 53 × 15cm) に 53 箱 (第 1 次 : 4 箱, 第 2 次 : 49 箱) の量の遺物が出土した。調査の規模を鑑みると、やや寂しい結果となった。出土遺物の多くを山茶椀及び山皿、山茶椀鉢の中世陶器が占め、井戸や流路からの出土がほとんどである。主要な遺物については、鈴鹿市考古博物館の速報展「発掘された鈴鹿 2012」(平成 25 年 3 月 22 日～6 月 23 日) で公開している。

【出土遺物】

- ①土 器：土師器，須恵器，黒色土器。
- ②陶 器：灰釉陶器，緑釉陶器，山茶椀，山皿，山茶椀鉢，常滑焼。
- ④その他：青磁，白磁，瓦，木材，種子（モモ） など。

※備考

掲載内容は全て平成 25 年 5 月 18 日現在の情報となっています。現地調査は既に終了していますが、将来的な報告書作成に向け、遺構及び遺物の整理・検討作業を相当期間行う予定です。今回は調査の概略を報告させていただきますが、最終的な内容に変更が生じる点がありますことをご了承ください。

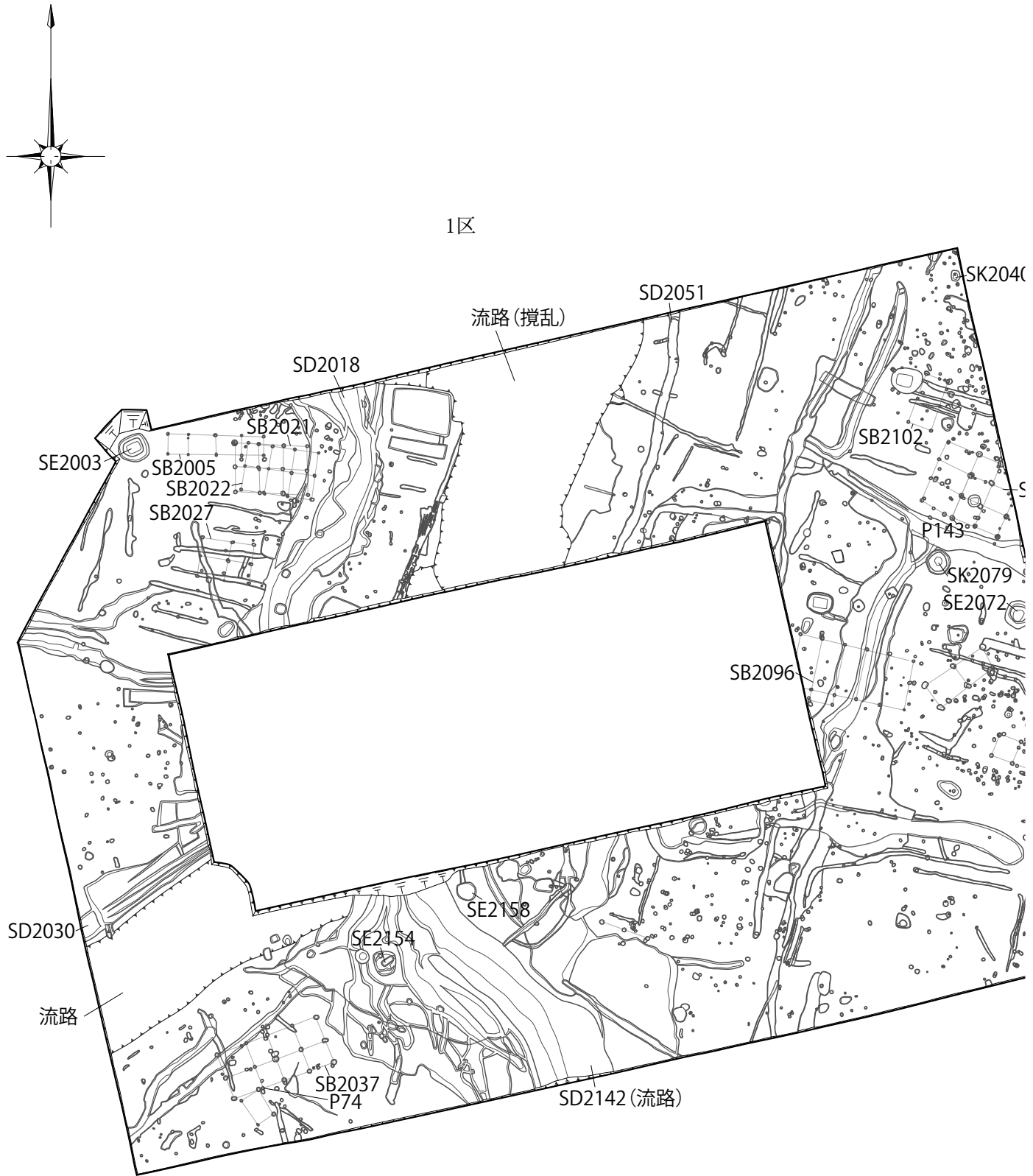


① 2 次 1 区 溝 SD2051 掘削状況 (南から)



② 2 次 1 区 土坑 SK2079 掘削状況 (南東から)

図2 木曾田遺跡第2次調査遺構

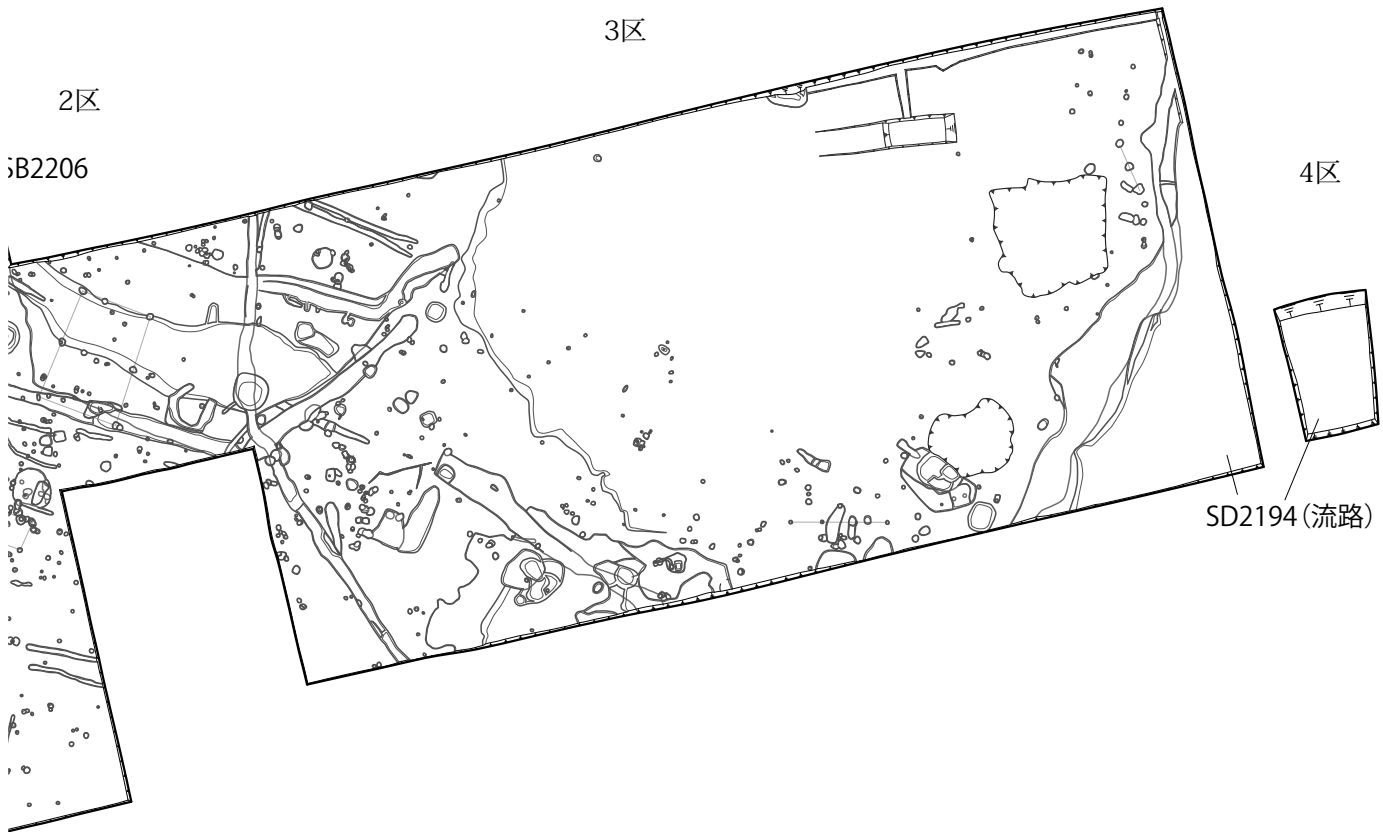


畚平面図(S=1:500)

【遺構名の表記について】

遺構平面図に表記している遺構名は、
主要遺構に対してのみ付与している。
遺構記号に対応する遺構の内容は、下
記のとおりである。

- SB=掘立柱建物
- SE=井戸
- SK=土坑
- SD=溝(一部流路)
- P=ピット, 柱穴





③ 2次1区 全景（南東から）



④ 2次1区 全景（真上から） ※上が北方向



⑤ 2次2～4区 全景（南東から）



⑥ 1次1～5区 全景（真上から） ※上が東方向



⑦ 2次3～4区 流路SD2194完掘(南から)



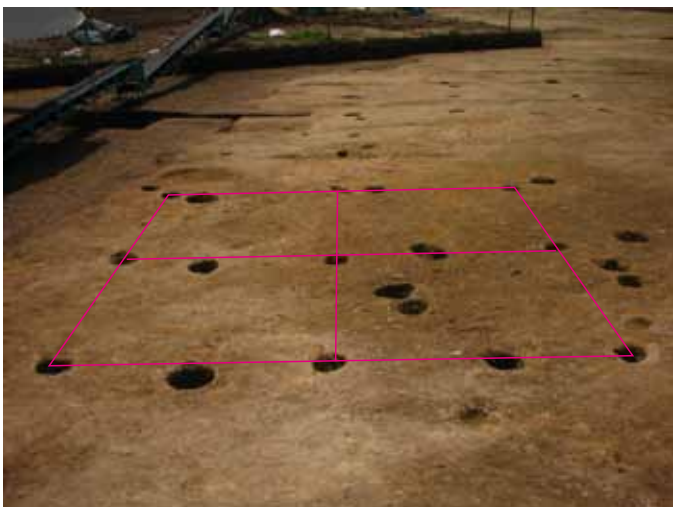
⑧ 2次1区 溝SD2018完掘(北から)



⑨ 2次1区 井戸SE2003完掘(北東から)



⑩ 2次1区 井戸SE2072完掘(東から)



⑪ 2次1区 掘立柱建物SB2021完掘(北東から)



⑫ 2次1区 掘立柱建物SB2037完掘(南から)